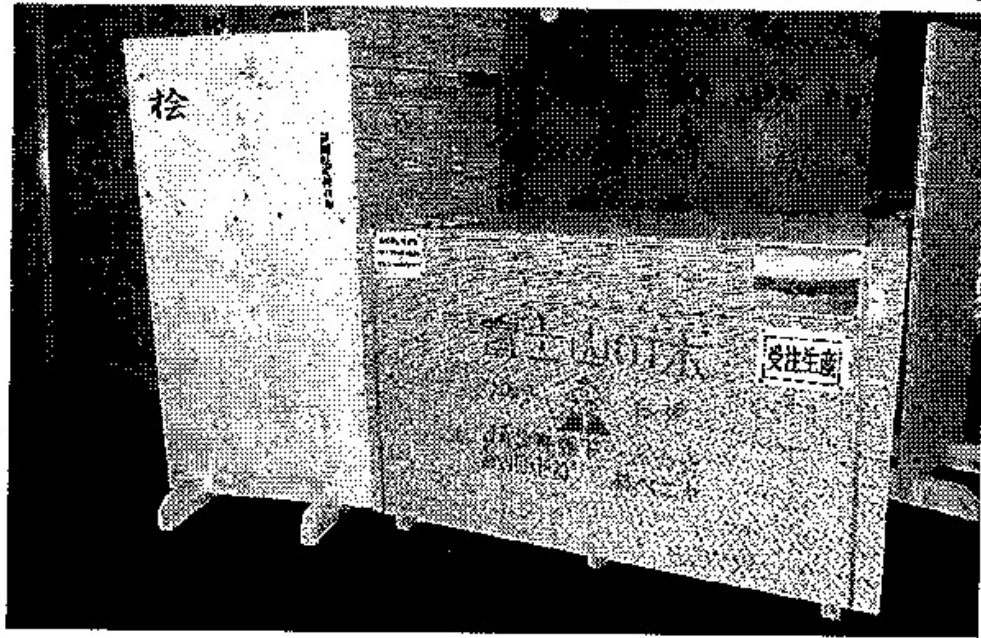


富士山松使い構造用合板

木材の地産地消を提案

マルダイ

大型小売店のマルダイ(静岡県富士市、深沢裕一郎社長)が企画・発注した静岡県産材合板「富士山の木・ひのき合板」がこのほど完成し、7日に開催した同社大型セール「新春初市」で初披露された。今後、PRと拡販を進めていく方針だ。



初入荷の「富士山の木・ひのき合板」

同製品 いるのが特徴。今回は、日本製 第1陣として24mm厚と紙北山社有 28mm厚各500枚が入林を中心とした富士山麓産の松原木を使用し、林ベニヤ産業七尾工場が製造を担当したオール松の構造用合板(3X6判)で、強度や耐久性が高く、美観に優れて

今後、同社が事務局を務める富士山木造住宅協会の会員工務店を中心に販売を進め、木材の地産地消を提案し、県産材仕様の木造住宅の普及を支援していく考え。当面は受注生産で展開するが、反響を見て取扱量の増加などを検討していきたいという。